

平成21年度 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270600313		
法人名	社会福祉法人清和園		
事業所名	セイワ美浜グループホーム (自己評価 むつみユニット)		
所在地	千葉県千葉市美浜区磯辺2 - 21 - 2		
自己評価作成日	平成21年12月2日	評価結果市町村受理日	平成22年2月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4 - 4千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成21年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんのそれぞれの生活リズムを尊重し、支援を行っている。また、ご家族やボランティアの方などとのつながりを大切に支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

セイワ美浜は、社会福祉法人セイワ園を経営母体とする、高齢者介護サービス総合センターとして、同敷地内に8つの施設を併設している。グループホームは、2ユニット18名の認知症高齢者の生活の場であり、入居者の思いやペースを大切にしたい抑圧感のない暮らしの支援をしている。共有空間には畳があり、炬燵を置いて寛げる雰囲気である。地域交流ホールでは、クラブ活動が行われ、グループホーム以外の人との交流もある。運営推進会議における家族の出席率は高く、会議を行うごとに有意義な意見交換が行われ、サービスの向上に生かされている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価(むつみユニット) および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	セイワ美浜グループホームとして独自の理念を作り、勤務室内やホームの入口等常に見える場所に理念を掲示している。	ホーム独自の「住まう人の笑顔と満足のため私達は笑顔で親切丁寧謙虚な支援を心がけます」という理念を掲げ、職員間で理念の共有が図られている。	理念の共有と実践をさらに進めるために、全員で繰り返し理念を掘り下げる話し合いを持ち、意識化することが期待される。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、近隣のお店に入居者とともに買い物に出掛けたり、地域と交流できるようにしている。	毎日の買い物を通じて、お店の人と顔見知りとなっている。近隣の中学校、小学校の訪問が定期的に行われプラスバンドや合唱を通じた交流が行われている。地域のゴミ拾いに参加したり、ホーム主催の夏祭りへの参加を呼びかけたりしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はできていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を実施することにより有意義な意見交換ができるようになってきている。評価の取り組みや報告、家族からの意見を踏まえサービスの向上に活かしている。	運営推進会議では、家族一人ひとりから必ず意見をもらうようにしている。その中から、家族が自主的にボランティア登録し、ボランティアとして散歩の支援をする事例等も実現している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	はい。	相談事があれば随時出かけている。同じ敷地内には千葉県あんしんケアセンターセイワ美浜もあり、相談しやすい体制がある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	はい。	職員は禁止の対象となる行為について理解している。入居者の意思と生活のペースを大切に、抑圧感のない暮らしの支援をしている。鍵についても夜間以外の施錠はせず、エレベーターの昇降、ホームの玄関の出入りも自由である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	はい。		

セイワ美浜グループホーム 自己評価(むつみユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や契約時には、家族と十分に話し合い、入居者の不安を出来る限り軽減できるよう、また安心した生活が送れるよう説明を行い、理解・納得をしてもらえるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回千葉市介護相談員が来園し、入居者の立場で意見交換をしている。また、家族からは日常の面会時や運営推進会議、家族面談等の場で意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。	運営推進会議は、家族の出席率が高く、意見や要望が集約しやすい。介護相談員や傾聴ボランティアが、入居者と定期的に面会しており、苦情の用紙も設置している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の開催や、適宜話し合い・相談の時間を設けて運営に反映させている。	ユニット会議等で意見の聴取をしている。毎日の業務の中でも随時話し合いを持つようにしている。相談の時間も設け運営に反映させるようにしているが、まだ反映しきれない部分も見受けられる。	すでに様々な機会を設けてはいるが、職員の意見が今以上に反映できると、さらに良いと思われる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	はい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	はい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、外部研修への派遣を行い、研修を通して交流できる機会を作っている。		

セイワ美浜グループホーム 自己評価(むつみユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前の面接や見学・入所の問い合わせ時に現在の本人の気持ちをできる限り確認している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談・面会時に現在の状況と問題を把握し、どのような支援を希望しているか確認している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>現在の状況を確認した上で、本人のニーズにあった併設のサービスを紹介する等行なうようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の中での食事作りや洗濯干し等ではやり方を教えてくれたり、手助けしてくれる場面もある。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面談や面会時に家族と情報交換などのコミュニケーションを行い、協力を依頼する。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会時には居室で一緒に過ごせるように配慮している。</p>	<p>家族がボランティア登録をし、近隣や施設の庭の散歩に同行している。友人の訪問時に外食を楽しんだり、馴染みの美容室を利用する入居者も多い。入居前の自宅への外泊支援も行っている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者間でのトラブルが起きないように、関係の把握に努めている。</p>		

セイワ美浜グループホーム 自己評価(むつみユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	はい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に意識、把握できるよう努めている。	日常的に思いや意向を把握するよう努めている。思いを表出できない入居者でも、表情等から読み取るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	施設の為、建物上での限度もあるが本人や家族から情報を得て、生活歴や馴染みの暮らし方を職員が共有できるよう勤めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	はい。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族面談を行い、意見や情報を元に介護計画を作成している。	居室担当者を中心に気づきや意見をまとめ、実際に現場で活かされるように全職員で介護計画を作成している。また、家族からも意見を聞いて計画に反映させるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や職員間での連絡ノートを活用・情報の共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	はい。		

セイワ美浜グループホーム 自己評価(むつみユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアや千葉市介護相談員(月1回)に来園してもらい、意見交換を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	はい。	ホームの協力病院の他、もともとのかかりつけ医がいる場合は、受診を支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職員の配置はありません。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と相談や連絡をとり、状態確認を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設のできることを説明しながら随時家族の意向の確認を行い、併設の他事業所への移動も視野に入れて検討を行なうよう努めている。	ホームとして出来る事と出来ないことを、家族に説明している。重度化した場合は、併設の他施設に移ることも可能である。	今後、入居者や家族がホームでの見取りを希望した場合にどうするのか、ホーム内で今一度検討することが期待される。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日赤救急法(年2回)研修の参加や急変時のマニュアルの確認を行っているが、勉強不足の部分もある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(年4回)を行っている。	併設の施設と合同で定期的に防災訓練を実施している。災害時のための備蓄も適切に準備されている。	

セイワ美浜グループホーム 自己評価(むつみユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	はい。	職員はトイレ誘導の声かけにも気を遣う等、普段から人格の尊重やプライバシーに配慮するよう努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人の希望を確認できるように努めている。声かけや利用者の言動や行動の意味を受け止めれるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースや意思を大切にすることに努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には本人に衣類を選んでもらうように努めている。また近所の美容院を利用した際には希望に添える(パーマやカラー)ように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食事作りは利用者・職員が一緒に行い、好みや力を活かせるように努めている。	職員と入居者は一緒に、食事の準備をして食卓を囲み、食後の後片づけをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量・水分摂取量の記録とチェックを行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者には職員が行っている。		

セイワ美浜グループホーム 自己評価(むつみユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握に努め、トイレ誘導や声かけを行っている。	排泄のチェック表でパターンを把握し、自立に向けて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の好みや乳製品を提供するなど工夫している。また体操や散歩の声かけを行い適度な運動を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて配慮している。また音楽を流し、楽しく入浴出来るように努めている。	個々にそった支援できるよう、時間等、できるだけ、希望にそって入浴ができるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせて就寝してもらっている。また、ベッドを使用しない利用者もおり生活習慣に配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別のカードックスに入れ、薬の内容を把握できるようにしている。しかし、職員全員が薬の内容は熟知できていない。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の気分や調子に配慮しながら家事等で出きることを行ってもらえるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって買い物等の外出支援を行っている。また行事のなかで外出計画を行っている。	家族の協力もあって、散歩や買物等希望にそって日常的に外出している。誕生日の行事で計画を立てて外食を楽しむこともある。	

セイワ美浜グループホーム 自己評価(むつみユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は買い物時に好きな物を購入してもらっている。その他の方は本人の希望で預かり金を使用している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家族等に電話の支援をしている。利用者によっては居室に電話を設置し、自由に連絡している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整や清潔保持に努めている。	共用空間は温度や光の調節も適切である。また、季節の花を飾ったり、温かみのある空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の意向に沿って、食卓やソファー、ウッドデッキ等で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みのある生活用品を持ち込んでもらうことで居心地よく過ごせるようにしている。	家族の写真、箆笥、椅子、仏壇、絵画等の使い慣れたものや見慣れたものに囲まれ、居心地のよい部屋作りがされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできること、わかることを引き出せるように努めている。		